

今回で僕は秋田合宿に 2 回目の参加になりました。しかし、夏の秋田は初めてであり、二回目の藤里町は冬とは全然違った雰囲気でした。もちろん雪などなく、冬には隠されていた藤里町の自然豊かな森や木を観賞することができました。自分も二年生になりボランティアに対する考え方も個人から全体という見方によって変わってきており、過疎化した藤里町を活性化させるにはどうしたらいいのか、という風に考えるようになりました。そこで、藤里町にあったのが藤里 REC という企画でした。これにごまちゃんメンバーも参加させていただきました。内容は藤里のいいところを動画に収めるというものです。優秀作品に選ばれれば藤里町の空き家に年間の使用権と秋田までの交通費が支給されるとのことでした。動画を撮るにあたって一組 4 人くらいで 4 班に分かれ撮影することになりました。まず、自分たちは何を撮るか、何を題材にするのかを考えてみると、いつもは傾聴ボランティアサークルらしく人に重点を置いていたのですが、人を取り囲む環境を撮影することにしました。最初はいろいろなところを散歩して歩き回ってみましたが、撮るだけでは「綺麗だね」で終わってしまうことになってしまったので、その環境をどういったことに使えるのか、などを中心に考えて撮影してみました。しかし、撮ってるうちに都会に住む人間はコンクリートジャングルにいて、灰色に染まった空を眺めるばかりで、この景色だけでも十分に心を惹きつけられると確信し、自然を背景に藤里の人々や、自然を使った遊び、藤里の伝統工芸品を作成しているところを撮影させてもらいました。また今回も藤里町の北部のほうに行かせてもらい、よさこいや炭坑節、ドンパン節を踊ったりして、高齢者の方々と交流を深めさせてもらいました。社会福祉協議会のほうにあるデイサービスにもお邪魔させていただいて誕生日会や傾聴活動をさせていただきました。冬の秋田とはまた合宿の内容も変わり、社会福祉協議会の方々との交流などがメインでした。去年よりも余裕をもって参加することができていい活動ができたと思いました。そして、秋田の歴史を語る博物館を特別に開けてもらい、拝見させていただきました。さかのぼると石器時代の出土品から、戦時中の武器や、手紙、装備まで様々な年代のものが幅広くありました。中でも墨で書かれた滝など現在ある、ものとそう変わらない精度で書かれており、時代の中で変わるものもあれば、残り続けるものがあるのだと実感することができましたし、それと同時に諸行無常であるこの世界に対して、残そうとする努力がないとすぐになくなってしまふのだとも思いました。実際、そういった歴史的な資料を残そうと人類が残したものであり、またそれを我々新しい世代が繋いでいかなければならないものであることに変わりはないのです。我々ごまちゃんは環境が良ければ人も変わるという言葉信じて活動していきたいです。僕たちができることはそのよい環境を人々に伝えていくことだと思っています。高齢者傾聴ボランティアという枠組みに収まらず、町おこしなども視野に入れて活動の幅を広げていきたいと考えています。ごまちゃんという環境はすでに整っています。あとは、そこにどう飛び込んでいくかを考えることが一番大切なことなのかもしれません。自分の身にするのか、楽しかったこととして思い出にするかは参加者次第です。